



新撰  
萬物名數往來

6295  
No. 1980





# 西園遊齋



藤原の成範を日向  
 守通憲のふかりと  
 風流用難うて甚  
 極花瓜のそと共  
 居不の儀めまふこ  
 ろうと極ゆき丸の人  
 んと極町中細意  
 以極花の寄の極  
 かしらるゝ憂と神  
 いのりや七目おと  
 へらるゝ極ゆき  
 へらるゝ極ゆき

# 新羅燕皇



良筆の安世とひ  
 十三代淳和  
 幸は御才とて度  
 極達意を人ねを  
 天長六年こののそ  
 とまりて諸國の民  
 めとくくあぐるは  
 をつらうゝめ農耕  
 の資とあうたるは  
 和朝よあわく水車  
 とのらゆるの権樂  
 となきはあがり



春より四月の  
中より六十日同  
の風より一  
のりそあ火海  
りりく温氣と  
かたのゆい  
おのり出りし  
月中より六月  
中より六十日  
火の字は  
ていしよを  
さけふし

見物もほひて  
一端のよ  
二五兩儀  
日月二親  
朋友二道  
律儀出  
一止  
二氣  
三倫  
四所  
五神

元熱  
新  
故  
幸  
中  
の  
ぞ  
と  
し  
か  
も  
中

古玉津島  
神乃  
之  
其  
天  
三

古文

三

卯く六十日のころ  
 寒きことふんふん  
 尤くつてわい  
 かの風吹く  
 もろの雨あつて  
 卯の十日のころ  
 六十日のころ  
 つくもの  
 卯の十日のころ  
 卯の十日のころ

唐日年三韓新羅百海  
 兼也都京江下坂抄  
 忠之津敷津高津新津  
 日本此京北嶋殿宮て橋立  
 みみ浦多々地電切津又津  
 下橋の津や比勢因東来武

卯十日のころ  
 うまのころ  
 卯十日のころ  
 卯十日のころ



の下橋の津や比勢因東来武  
 神の唯宗源の都三種名神  
 兼也都京江下坂抄  
 忠之津敷津高津新津  
 日本此京北嶋殿宮て橋立  
 みみ浦多々地電切津又津  
 下橋の津や比勢因東来武

のちの世はまじりて  
 二月の中より四  
 月の中より六日  
 の間の温氣つよ  
 くわたり四月の  
 中より六月の中  
 まして十日の温  
 熱わたり六月の  
 おろり雨降雨く  
 れるき神  
 るひらひま  
 散るまわり六

孝行上神女なり極之徳の君臣  
 父子兄弟之親の父子兄弟身  
 人倫の三尊君父師也孝子忠  
 臣義士孝友の徳の徳智仁  
 勇婦女は後世に在る父兄  
 人倫の三尊君父師也孝子忠  
 臣義士孝友の徳の徳智仁

月の中より八月  
 カマて六日  
 暑熱をわける  
 しく一合より  
 物色は相和り  
 今より年を  
 冷し風お  
 小吹べし月中  
 十月の中より  
 六日の中より  
 十月の中より

後ふともや三不去の要事なり  
 聖人なるを共く  
 更さば不之を  
 富貴ふたふた  
 之教神佛也  
 嗟哉希世之  
 賢人なり

月中まて二十日  
のるいさほほほ  
るのりくくね  
きくおまき雪  
わくしてあもほ  
くあひたへ  
寅申おとく  
年十二月より今  
二月の中まて  
六十月より  
り風吹へ此  
を人あわらて

道風成依理也之寶佛  
法僧之世道を現在未來之  
業此口意之毒命欲瞋恚  
愚癡之害子戒定慧之要欲  
身運界母之運者なるし  
春夏秋冬四季少陽太陽  
地の中象の少少心也極東

二月の中より  
中まて六十月  
同いさほほほ  
くくくくく  
六月の月の中  
六十日の月の中  
あそく熱き

法た法天の西象の日月星辰  
地の中象の少少心也極東  
西象の四隅は巽坤乾四神  
相應の左青龍右白虎前朱雀  
後玄武四海五夷八寶  
秋平種は地あり火風心靈八麟







二月の申より十二月  
十日迄申より十日  
日の間いさよき  
風多きをせり  
多し知くありて  
女中を甲けり  
い生どれ申す  
より八月申より十日  
十日迄申より十日  
十日迄申より十日

夫婦外事明なき仁義  
徳智信五徳八徳  
又經國易易毛詩尚書春秋  
記之新法入儀多為頻曲流  
入教麻衣襦履五輪空  
風少也地入辛少蒜若蔥

二月の申より四月  
二月の申より四月  
二月の申より四月  
二月の申より四月  
二月の申より四月  
二月の申より四月  
二月の申より四月  
二月の申より四月

切見命煩悩衆生あり六六  
六氣陰陽風雨晦明六時  
後夜思親父子兄弟  
後夜思親父子兄弟  
後夜思親父子兄弟  
後夜思親父子兄弟  
後夜思親父子兄弟  
後夜思親父子兄弟  
後夜思親父子兄弟  
後夜思親父子兄弟







るいそとん元陽  
手母まけら  
申のまもま  
まくとあもそ  
らどまのどくわ  
そくくかそと

世間安危と説

○甲乙の干に丑  
辰未成乃  
世の中わ  
○丙丁の干に



西のとくそ世乃  
申方と  
○戊丁の干小ま  
みれくそ世の中  
わく大魁水は  
にあまがたまり

鶴翼若蛇使の宮月鉾  
矢方園御托崗刻武義  
お授安危上総下総上野下野  
考屋座り難飢渴寒暑水  
少分兵将神大歳大拍車大  
歳刑歳不災殺害傷約危

大詔王難比跋難許安福難  
相渡者徳又迦阿那婆達多摩  
那斯源丸難矢朽變定業術  
大脚鞍馬僧心坊比良次郎坊  
能徳之山山仙堂屋美山堂  
お房大峰音鬼屋相摸房

○庚辛の平心寅  
 卯のとき  
 金魁本のとき  
 乙卯の魁年也  
 ○甲乙の平心申  
 のとき  
 乙酉の平心子  
 のとき  
 ○戊己の平心寅

八宗律儀供養  
 天竺花嚴道  
 死の別雜  
 若くは  
 卒下  
 或る轉法  
 天竺花嚴道  
 死の別雜  
 卒下  
 或る轉法

て世の中  
 ○庚辛の平心  
 乙卯のとき  
 風ありて年中  
 そひく  
 ○壬癸の平心  
 辰未のとき  
 乙未のとき  
 乙未のとき

等活里纏  
 焦熱大焦熱  
 天龍  
 樓羅  
 人宗  
 曜金曜  
 曜火曜  
 言都月曜







